

ふくしま農業女子ネットワーク 農女びより



すずき
鈴木 陽子さん (福島市)

リンゴ栽培日々挑戦



葉摘み前のリンゴ(左)と葉摘み直後のリンゴ(右)。葉摘み後、全体がきれいに赤く色づきます

◆ふくしま農業女子ネットワーク(愛称:百笑一姫♡Fukuがある) 農業女子同士の交流・連携を深め、技術の向上を図ろうと、県内の女性就農者や就農希望者65人で構成。福島民報社をはじめ、県内の30企業・団体が「応援団」として登録している。農産品を使

った加工品の共同開発や情報発信、経営力向上、販路拡大などに連携して取り組む。メンバー、応援団となる企業・団体を随時募集している。URLは <https://www.fuku-girl.jp/> 問い合わせは事務局 県農業担い手課 電話024(521)7340へ。

約10年前、初めて福島のリンゴを食べた時の驚きは、いまだに忘れられません。愛知県出身の私にとって、リンゴと言えば長野産や青森産。愛知には福島産リンゴがほとんど出回っていないこともあり、それまで福島でリンゴが生産されていることも知りませんでした。もともと毎日フルーツを食べる習慣があり、1年の半分以上はリンゴを食べていたほどのリンゴ好き。夫の実家は福島市飯坂町の東湯野地区で果樹園を営んでいます。婚約を機に夫の両親から送られてきたリンゴの深い甘みに、今まで食べていたリンゴは何だったんだろっ? と衝撃を受けました。

そして今、「自分がやらなくては、せっかくなのおいしい果物が途絶えてしまっ!」という夫の熱い思いと共に、福島に越してきて4年目になります。家族みんなでリンゴやモモ、ブドウを栽培しています。農業は自然が相手です。昨年は猛暑、今年は大雨や台風となかなか思い通りにはなりません。それでも、就農した年から出店し続けている福島駅前のマルシェ「グッデイマーケット」をはじめ、応援してくれるお客さまとの触れ合いに本当に助けられています。

リンゴを出荷するためには、さまざまな農作業があります。例えば、最後の仕上げ作業。何万个もの果実全てに日が当たるように脚立に上り、一つ一つリンゴを回して周りの葉を取り除いていきます。こういう根気のいる作業の時は、お客さま一人一人の顔や声、お手紙を思い出すと、頑張らなきゃと力が湧いてきます。今年もお客さまにリンゴをお届けできるのが嬉しいです。県内外、そして海外まで。私が初めて福島のリンゴを食べた時のあの驚きを、たくさんの方に味わってもらえるように日々挑戦していきます。

◆プロフィール◆ 夫と義父母と共にモ、リンゴ、ブドウを栽培。果物を使ったジャムも手掛ける。宅配による直売と、毎週日曜日にJR福島駅東口前広場で開催されるグッデイマーケット(午前10時~午後3時)で販売。手作りのジャムはJAふくしま未来農産物直売所(こら矢野目店)と吾妻店にて販売中。フェイスブックやインスタで情報発信中。